

当院の初期研修に関心を持って下さる医学生に向け、選考に対する私達の考えを御説明します。

選考の位置づけ

私達は選考の過程を学業優秀であったり英語が得意な人材を選び出すこととは考えていません。当院の初期研修プログラムに合う方に来ていただくことが重要だと考えています。

当院に合うとはどういうことでしょうか。当院ではアドミッションポリシーと呼ぶ選考の基準を作成しており、以下で詳しく御説明します。また、このような基準を設けてはいますが、当院に合う人物像とは決して画一的なものではありません。多様な研修医が集まっていることも当院の魅力であると考えています。

アドミッションポリシー 期待する研修医像

初期研修に関わる様々な部門の代表者から意見を集め、研修医に期待することをまとめました。当院の研修において重視される内容とも言えます。自身の指向と合致するか検討していただけるよう、医学生に公開しています。

① 知識・技能の領域

- ✓ 充実した知識と技能を有し、それらを診療に活かし向上に努める。

② 理解・思考・表現の領域

- ✓ 論理的に理解・思考・表現する能力を有し、それらを診療に活かし向上に努める。
- ✓ 他者と理解・共感・表現し合う能力を有し、チーム医療を実践すると共に、互いに教え合い学び合う。
- ✓ 英語による理解力・表現力と国際的視点を有し、診療や医学知識の習得・発信に活かす。
- ✓ 課題を抽出して解決する意識を有し、当院の伝統を受け継ぎながらさらに発展・変革していく。

③ 主体性・協調性の領域

- ✓ 主体性を有し、診療と研修の両面において自ら考え行動する。
- ✓ 協調性を有し、チーム共通の目標に共感し協力・分担して行動する。

④ 倫理・使命感の領域

- ✓ 強い使命感と優しい心を有する。
- ✓ 責任感を有し、自身の役割を理解し遂行する。
- ✓ 社会・システムの中で医師が負う責任を引き受け、秩序を守って行動し、社会に貢献する。

アドミッションポリシー 入職前の段階で期待する内容・水準

「期待する研修医像」に基づいて導き出した、医学生に期待することです。選考において特に注目する点であり、医学生に公開しています。

すべての項目を完璧に満たすよう求めているではありません。特に英語力についてよく御質問をいただきますが、入職前に高い英語力を期待しているのではない、ということも誤解を招かないよう申し添えます。

- ✓ 医学全般に幅広く興味を有し、基本的な原理と知識を修得している。
- ✓ 論理的に考え、自身の考えをわかりやすく伝えることができる。
- ✓ 他者との共感・協力ができるコミュニケーション能力を有する。
- ✓ 英語力と国際的視点の重要性に気づき、それを向上させる意欲を持つ。
- ✓ 自ら考え行動する姿勢を有するとともに、人と協力することができる。
- ✓ 困っている人を助ける基本的行動原理を有し、そうした職業に就く自覚を持つ。
- ✓ 自身・医療と社会との関係を考える視点を有する。

当院の研修に興味を持って下さる医学生には、こうしたことを意識しながら過ごしていただきたいということです。そして選考においては遠慮なくアピールして下さい。

選考の方法

以下の 5 つの方法を組み合わせます。

- ✓ エントリーシート
- ✓ 大学の成績証明
海外大学出身者においては Dean's Letter またはこれに準じる成績証明
- ✓ 試験の結果証明
共用試験の結果
海外大学出身者においては 医師国家試験予備試験第一部の成績通知
医師資格保有者においては 国家試験合格証のみで可とする
- ✓ 自己紹介動画
- ✓ 面接

入職前の段階で期待する内容・水準と 5 つの選考方法との関係は次の表のようになっています。

入職前の段階で期待する内容・水準	シート	大学の 証明	試験の 結果	動画	面接
医学全般に幅広く興味を有し、基本的な原理と知識を修得している。	○	○	○		
論理的に考え、自身の考えをわかりやすく伝えることができる。	○	○	○	○	○
他者との共感・協力ができるコミュニケーション能力を有する。				○	○
英語力と国際的視点の重要性に気づき、それを向上させる意欲を持つ。	○			○	○
自ら考え行動する姿勢を有するとともに、人と協力することができる。	○			○	○
困っている人を助ける基本的行動原理を有し、そうした職業に就く自覚を持つ。	○	○		○	○
自身・医療と社会との関係を考える視点を有する。	○			○	○

大学の成績証明について

医学部での教育は医学知識のみに留まらない使命感や人間性の涵養、生涯のキャリアとの連続性の確保という方向へ進歩しています。これは私たちが初期研修において重視するものと一致します。みなさんが医学部入学以後どのように過ごしてきたかを示す資料として、成績証明の提出をお願いしています。

これらは多面的評価の資料として提出をお願いしており、大学間での違いも考えられることから、成績の良し悪しは選考の評価に直結しません。

共用試験結果の提出について

アドミッションポリシーでは「医学全般に幅広く興味を有し、基本的な原理と知識を修得している」ことを求めています。幅広い診療領域に挑戦し、診療の前線に立つ当院の研修に臨むために、必要な要件です。書類・動画・面接でこの点を評価するのは難しく、また国家試験より前の段階でこの点を評価するには、共用試験の成績が最も公平・公正であろうと考えて提出をお願いしています。

日本国医師資格を保有している(医師国家試験に合格している)場合には、その証明を提出していただき、共用試験結果の提出は必要ありません。

自己紹介動画について

自己紹介動画(エントリームービー)について簡単にご説明します。

様々な軸で医学生を評価し当院と合う人材を選び出すには、面接では自ずと限界があります。まずエントリーシートと動画で自己表現していただくことで面接がより効果的になることや、面接よりも多くの人数・視点で評価が可能になることから、自己紹介動画を選考に導入しています。

評価の対象は動画の仕上がりではなく人物像なので、気負わずありのままで撮影して下さい。詳しくは動画作成提出の要項を御参照ください。

よくある質問① 見学経験があることを応募要件としているのは何故ですか。

当院に合う人材に来ていただきたい。そのために医学生のみなさんには様々な情報収集・見学や選考の過程も含めて、当院の特徴を理解していただきたい。こうした考えに基づいています。そして私達も医学生みなさんの選考を受ける心づもりでいます。

1日当たりの見学受け入れ人数を決めていることもあり、見学希望者が多数の場合には初回の方を優先させていただき、既に経験されている方に日程変更等をお願いするケースが生じています。見学の経験回数が選考の扱いに関わることはないので御安心ください。

よくある質問② 共用試験や大学の成績に自信がありません。

学力は幅広く分布しますし、それに対するみなさんの自己評価も様々です。その中であまり自信がない方が応募を躊躇されるのは私達の本意ではありません。

各方法を組み合わせて多面的・重層的に評価するので何%と明示することは難しいですが、選考において注目する 7 つの特性のうちの 1 つ「医学全般に幅広く興味を有し、基本的な原理と知識を習得している」の評価資料とするので、最大で 7 分の 1 程度を占めると言えるでしょう。また、試験や成績に限らず医学に対する興味や取組は評価の対象となり得ます。

よくある質問③ 英語力の要求について詳しく教えてください。

英語を使う研修があることなどから心配される方もいますが、「入職前の英語力は重視しない」ということを明確に申し上げます。TOEFL・IELTS 等の英語力検定や USMLE 合格の有無も選考には関係しません。

求めているのはアドミッションポリシーにもあるとおり「英語力と国際的視点の重要性に気づき、それを向上させる意欲を持つ」ことです。当院で充実した研修生活を過ごせるよう、英語でのやりとりにも挑戦する勇気を期待しています。

よくある質問④ 海外の大学で学びました。

当院では海外の大学で学んだ方や外国籍の方もこれまで多く研修しています。

出願時には CC EPOC 評価データや共用試験結果の代用として、Dean's Letter ならびに医師国家試験予備試験第一部の合格証明を提出していただきます。後者は 7 月下旬に合格が通知されるため出願には間に合わず、面接日まで提出していただきます。

よくある質問⑤ 海外留学の希望の有無は選考に関わりますか。

関係ないと明言します。みなさんが描く「医師としての将来像」を理解する目的で、留学の考えにつき質問することはあり得ます。これが選考上の有利不利に関わることはないので、心配なくお考えを聞かせてください。

医学生・研修医がもし海外留学を志すなら、それを私達は応援します。決して海外留学に限られるのではなく、すべての研修医のキャリア形成を私達は応援します。

よくある質問⑥ 大学に地域枠で入学していることは選考に関わりますか。

地域枠を理由として採用にならないということはありません。実際、北海道や北海道外各地の従事要件が課されている方が当院で数多く研修しています。

社会で共有され様々な期待を背負う若い医師を、私達は研修医として預かっています。従事要件等がある場合にはそれを把握し、一緒に進路を考える責任があります。こうした理由から、応募時には従事要件等についての申告をお願いしています。